

有識者会議における主な意見

【理解促進・普及啓発】

- 地方に行けば行くほど、「家族が介護をするのが当たり前」という認識が強いと思うので、道民全体への理解の促進が重要
- 道民や事業者などに対し、ケアラー支援の必要性を分かりやすい形で周知していく必要があり、まずは条例の制定を考えるべき
- ケアラー本人は当初、どこに相談すれば良いかわからない場合が多いと思われることから、相談窓口の十分な周知が必要

【ケアラーの早期発見・相談支援体制】

- ケアラーにとっては、身近な相談窓口の存在や対応が一番大事
- 相談窓口が行政のみでは、相談しづらく感じる方も多いため、地域のカフェ（住民主体の集いの場）なども活用することが有効。
- まずはケアを必要としている家族を、公的サービス等の利用に繋げることが第一である。
- 特にヤングケアラーの場合は、ケアを必要としている家族にサービスが届いていない結果、子どもがケアを負担している可能性があり、子どもへの支援の視点のみならず、支援が必要な大人の問題としても捉えるべきである。
- ヤングケアラーは学校での発見が重要であり、学校での認識をさらに深めることが必要。
- 全てを学校に担わせることは難しいため、地域が一体となった支援体制を目指すべき。
- スクールソーシャルワーカーの配置増が望まれるほか、配置方法や学校内の役割分担の見直しなども考えられるのではないかと

【地域づくり】

- ケアラーの早期発見のためには、気づいた人や発見した周りの人が関係機関や相談窓口に繋がられる地域づくりが必要。
- 行政や一般住民だけの見守りだけでは足りず、郵便局や金融機関など地域の身近な企業を取り込んでいくことが必要。
- カフェやサロンなど、地域コミュニケーションの場を作っていくことが効果的。
- ヤングケアラーに関しては、「児童生徒の所属する学校」と「ケアを受ける家族を支援する福祉関係者」との連携強化が必要ではないかと